

コストフロー上のBOX順に原価計算がどのように行われていくのか？を示します。

(1)材料費計算(費目別計算)

- ①材料品番ごとに材料を仕入れる(外部から「材料」「入庫」)
- ②材料を製品の生産実績ごとに製造の製品に払出す(「材料」「消費」から「仕掛」「投入」)
- ③月末の材料在庫が材料品番ごとに確定する(「材料」「在庫」を繰越)
- ④間接消費分を「製造間接費」BOXへ付替える
(「材料」「消費」から「製造間接費」「間接費分の振替」)
- ⑤その他の材料の出庫(「材料」「消費」から「損益」「売上原価」)
- ⑥原価差異が分かる(「材料」「原価差異」から「損益」「売上原価」)

※以下は部門別計算・製品別計算ですが、材料費関連なのでここで記してしておきます。

- ⑦他の費用と併せて間接費を纏める
- ⑧製造間接費の製造部門へ纏める(一次配賦)
(「製造間接費」「間接費分の振替」内で配賦計算)
- ⑨製造間接費を製造の製品へ配賦する(二次配賦)
(「製造間接費」「消費」から「仕掛」「投入」)

以上が材料費の費目別算です。

①の“単価”“数量”“金額”のデータと、②～⑤の“数量”データは、基本生産管理等の基幹システムからデータを入手します。

これに原価計算を施して「出庫」側の“消費単価”(=原価単価)を計算するのが材料費計算です。

「消費単価」の計算方法は、次ページの通り2通りあります。この内、「消費単価」に標準単価を用いる方法の場合は、この時計算された“実際単価”と“標準単価”に差が出ます、この差が⑥「原価差異」(単価差異)データとして作られます。

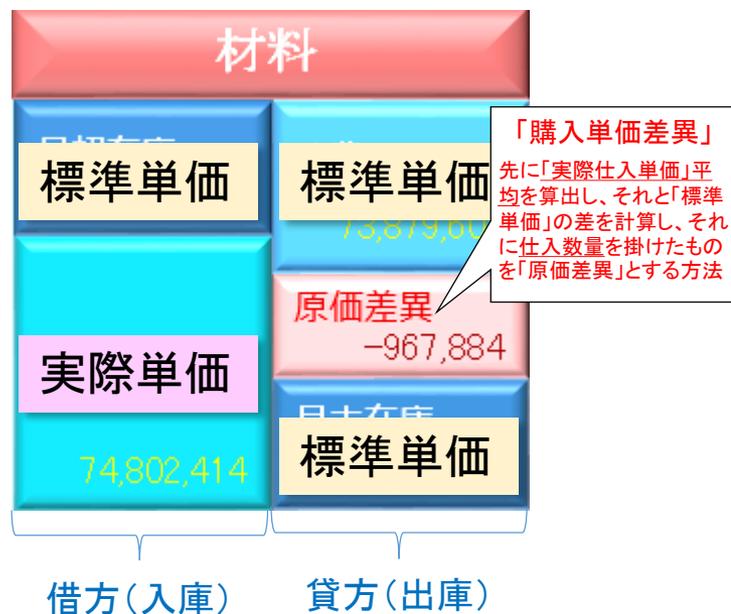


材料費の計算をもう少し詳述します。材料の単価計算とは「材料」BOXの「貸方」に記載される「材料単価」を計算することをいいます。SHINは標準原価計算方式ですので、貸方の消費単価は「標準単価」となります。但し、この標準単価と比較する計算上の「実際単価」を何に設定するか？によって、原価差異の金額が変わります

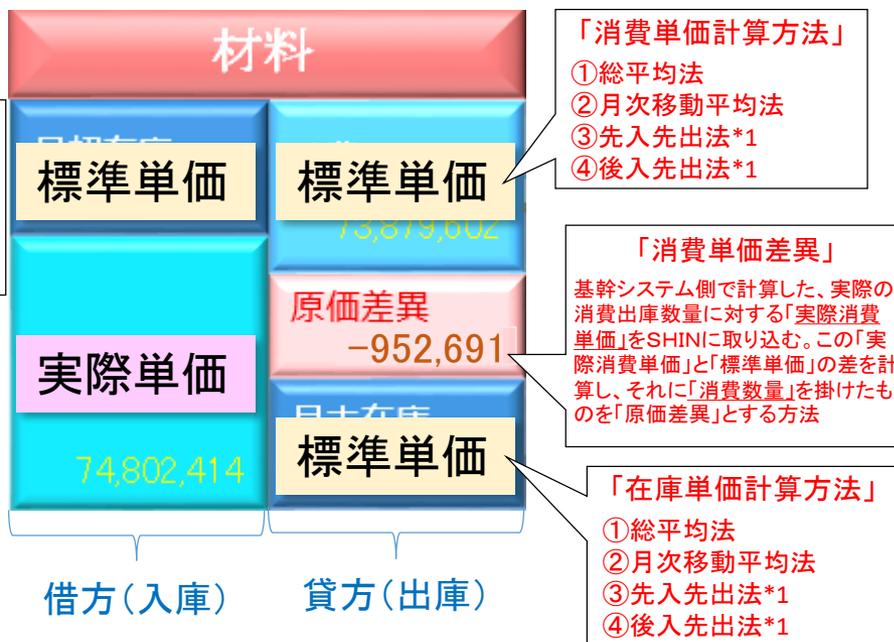
- (1) 標準的方法 : 「仕入実際単価」を使用し「標準単価」と比較する。「原価差異」は「購入単価差異」となる。
- (2) 基幹システムから取込む方法 : 基幹システムから消費明細データ、在庫明細データを取込む際に「実際消費単価」も取り込むSHINはこの消費単価を「標準単価」と比較します。「原価差異」は「消費単価差異」となる。

※尚、この「消費単価」の計算方法を選択した場合は、「消費単価」「在庫単価」とも基幹システムの計算結果に依存します。
SHINでは個別に「実際消費単価」の計算は行いません。

(1) 標準的方法



(2) 基幹システムから取込んだ「実際消費単価」



*1 この方法は製番別原価計算にのみ有効です